

蒼葉

裾野市立深良中学校だより

平成 23 年 10 月 28 日 (金)

第 24 号

発行人 校長 鈴木史良

未来を担う若者を育てる

—— キャリア教育としての職場体験学習の意義 ——

10月31日(月)、11月1日(火)の2日間にわたり、深良中2年生全員が「総合的な学習の時間」を使って職業体験学習を実施します。本校ではこの体験学習をキャリア教育の一環として位置づけています。昨今、話題になることが多いキャリア教育。そもそもキャリア教育とはいったい何でしょうか？ これまで中学校で行われてきた進路指導とどこが違うのでしょうか？

キャリア教育は来年度から実施される中学校新学習指導要領において次のように述べられています。

“近年の産業・経済の構造的な変化や雇用の多様化・流動化等を背景として、就職・進学を問わず子どもたちの進路をめぐる環境は大きく変化している。このような変化の中で、将来子どもたちが直面するであろう様々な課題に柔軟かつたくましく対応し、社会人・職業人として自立していくためには、子どもたち一人一人の勤労観・職業観を育てるキャリア教育を充実する必要がある。”

従来の進路指導は高校等への進学や就職に重きを置いていました。しかし、近年、定職をもたない若者や社会における雇用不安等が増大し、子どもたちにも学校での学習に自分の将来像を見いだせずに学力や学習意欲が低下する傾向が現れてきました。

このような子どもたちに正しい職業観や勤労意欲を身につけさせるため、幼児期の段階から高等教育まで、学習の基礎・基本や人間関係、自己理解、課題対応能力等を体系的に育成するとともに、社会との関連を重視し、実践的・体験的活動を充実させていくのがキャリア教育の考え方です。

本校2年生は日常の学習で培った能力を自分たちが選んだ様々な職場で実践いたします。今年度は「佐々木自動車」「戸田書店リブレ裾野店」「ベルシティー裾野」「ハックドラッグ裾野店」「大橋内科小児科医院」

「恋路亭」「富士サファリパーク」「ENEOS 阿部商店」「平川電気」……etc 等計51箇所の事業所、商店等のご協力をいただきました。本校生徒を快く受け入れてくださった皆様に感謝申し上げます。ご迷惑をお掛けすること多いと思いますが、2日間の職場体験活動が事故なく無事に終了し、子どもたちにとって“生きた学習の場”となるような活動になることを願っています。



心肺蘇生法の講義を受ける2年生



消防署員による救命手当の実習

市連合音楽会で3年生のすばらしい演奏を讃える！！

10月20日（木）、午後から市民文化センターアザレアホールで、中学校連合音楽会が開催され、市内全5中学校がそれぞれ自慢の演奏を披露しました。深良中学校は2番目に登場し、混成三部合唱の「あなたに会えて」と「ヒカリ」を熱唱しました。公の場で披露したのは蒼葉祭以来ですが、この日のために一生懸命練習を続けてきたせいか、難曲「ヒカリ」のすばらしさに初めて触れたような気がしました。終了後にステージ上の片づけを手伝う深中生の姿も美しかったです。

＜指導講師、浜田洋通先生による講評＞

とても豊かでソフトな声質と心をもった3年生全員の歌声は、会場をゆったりとした気持ちにしてくれました。力みもなく艶のある女子の声に、伸びのある男子の声がぴったり合った合唱だと思います。

「ヒカリ」は本領発揮で、さらにダイナミックな演奏で会場に響きました。表情もとても豊かな歌い方で素晴らしいです。女子のハイトーンもすばらしく、男子の重厚な響きの支えによって、さらに立派な演奏になりました。

音楽ってすばらしいですね。立派な演奏をありがとうございました。

ある日の授業風景 3年 音楽「合唱曲の仕上げ」 授業者 内田 裕子

「昨日の録音、どうでしたか？」全神経を耳に集中させてメモを取っていたその手が、一斉に上がります。「前より柔らかくなったけど、まだ地声っぽい」「“やさしい声”の“え”が強すぎる」「“一生懸命生きる”が伝わってこない」「アルトが全体的に小さい」「最後のララ・・・のソプラノが苦しそう」「子音と母音が、もっとはっきりした方がいい」・・・友達の意見を聞きながら、メモの手を止めません。本番は明日。



もっともっといい合唱にしたい、という3年生の気持ちが伝わってきます。この後、出されたことを中心に、パート練習です。男子は、「・・・に気をつけて」というポイントを決めて皆で歌うのを、パートリーダーが聴き、指摘してまた繰り返す、という練習を始めました。リーダーはなかなか厳しく妥協しません。仲間たちはそれになんとかついていこうとするし、意見も出しています。高音で苦勞しているソプラノパートは、教師と発声練習です。体のあちこちを使って響きを掴み、声域を上げていくうち悲鳴に近くなってしまう自分たちの声に笑いながらも、なんとかきれいにしようと真剣です。音程の取りにくいアルトパートは、パート別CDで音取りの再確認。



「〇〇ちゃん、今の音低いよ。」「えーっ！わたし、ずっと違ってたみたい。直さなきゃ。」「がんばれ！」

自分たちで課題を見つけ、仲間と共に解決しようと話し合い、一生懸命歌に表現していく姿を見せてくれた、3年生の1時間でした。